http://www.edu.pref.kagoshima.jp/　（通巻第１７４８号）

# 指導資料

鹿児島県総合教育センター

外国語（英語）第71号

－高等学校・特別支援学校対象－

平成24年10月発行

# 言語活動と一体的に行う文法指導の工夫

今回改訂された学習指導要領においては，「聞くこと」，「話すこと」，「読むこと」及び「書くこと」の４技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成するとともに，その基礎となる文法は，「コミュニケーションを支えるもの」として重要視している。その指導に関しては，コミュニケーションから切り離して，体系的に説明することに終始するような従来の指導ではなく，言語活動と効果的に関連付けて指導するよう改善が求められている。

そこで，本稿では，言語活動と一体的に行う文法指導について，具体的に述べる。

## １　文法指導上の留意点

### (1) 中学校との円滑な接続

学習指導要領には，高等学校で新たに指導する文法事項として，次の８項目がが示されている。

- 不定詞の用法
- 関係代名詞の用法
- 関係副詞の用法
- 助動詞の用法
- 代名詞のうち，itが名詞用法の句及び節を指すもの
- 動詞の時制など
- 仮定法
- 分詞構文

また，「高等学校学習指導要領解説外国語編・英語編」では，これらの８項目の中学校での既習事項について，次のように例を示した上で，高等学校で新たに指導する内容について述べている。

> 「不定詞の用法」についての説明
> 中学校において指導しているのは「to不定詞」に限られている。（中略）したがって，高等学校では，原形不定詞の用法などについて指導する。

このことを踏まえ，高等学校における文法指導においては，まず中学校での既習事項（「何を」「どの程度」学習したか）と未習事項を正確に把握した上で，中学校での既習事項を必要に応じて繰り返し扱いながら，新たに指導する文法事項について，言語活動を通して定着を図る必要がある。

### (2) 言語活動のバランス

言語活動においては，大まかに「言語を使用して情報を伝え合う活動」と，それを支える文法などの「言語材料の理解や練習を行う活動」とが考えられる。

コミュニケーション能力の育成の観点からは，自分の体験や考えなどと結び付けながら，実際に「言語を使用して情報を伝え合う活動」を通して文法指

導を一体的に行うことが必要である。その際，言語を使用した情報の授受を意識するあまり，言語材料の定着についての指導がおろそかにならないよう，生徒が使用する英語に対して適切な評価と指導を行い，言語材料の定着を図る必要がある。

そのためには，**図１**のように「言語を使用して情報を伝え合う活動」を言語活動の中心に据え，その活動を「言語材料の理解や練習を行う活動」で挟むような形で，二つの言語活動をバランスよく取り入れて指導することが重要である。

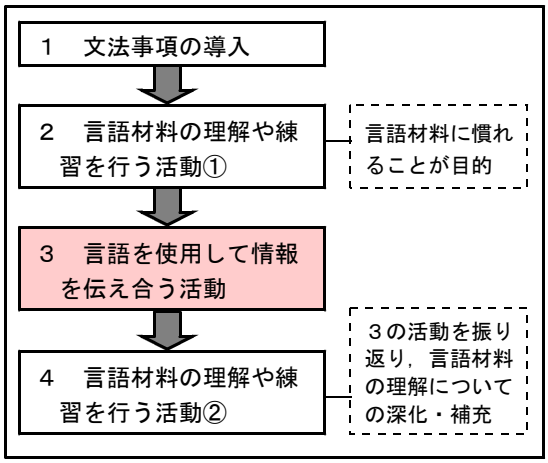



**図１　文法指導の流れ**

また，英語で授業を行うことを基本としながらも，文法の用語や用法の説明を必ず英語で行うというわけではなく，必要に応じて日本語で簡潔に説明を行い，言語活動を通して文法事項の規則に生徒自らが気付いたり，言語材料を正しく活用できるよう配慮する必要がある。

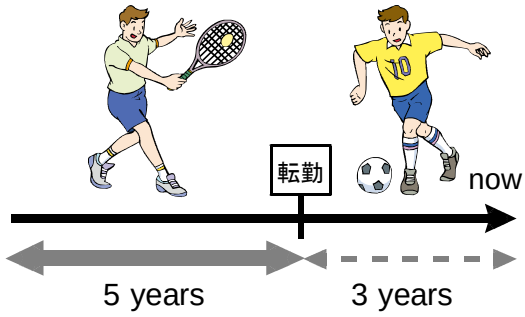
## ２　言語活動と一体的に行う文法指導の実際

ここでは，「文法事項の導入」，「言語材料の理解や練習を行う活動①」，「言語を使用して情報を伝え合う活動」，「言語材料の理解や練習を行う活動②」という流れに沿って，高等学校で新たに学習する「過去完了形」の指導を例に説明する。

### (1)　文法事項の導入

１－(1)で述べたように，中学校で学習した現在完了形（波線部）を活用し，次のように英語で生徒とインタラクションしながら過去完了形（傍線部）を導入していく。

T　：　Student A, what sport do you play?
SA：　I play tennis.
T　：　How long have you played it?
SA：　I have played it for six years.
T　：　Great!　I have played soccer for three years since I moved to this school. However, I had played tennis for five years before I moved to this school.
（黒板に下の絵を提示する。）




「完了」と「経験」の用法についても，同様にいくつかの例を英語で紹介し，生徒同士で過去完了形が表す大体の意味や規則を確認させる。その後，教師が日本語で「過去完了形は過去の出来事とそれ以前の出来事との関連を明確にする文構造である」ことを簡潔に説明し，生徒の理解を深める。

(2) 言語材料の理解や練習を行う活動①

この活動は教師主導の「和文英訳」が主流であったが，それでは活動の中で情報の授受は行われず，「言語活動」とは言い難い。ここでは，簡単な情報の授受を通して過去完了形の言語形式に慣れさせる活動について述べる。

ア　インタビューを生かした練習活動

まず，教師が生徒に次のように簡単なインタビューをし，そこで得た情報を基に過去完了形（傍線部）を使って表現するモデルを提示する。

T　：I took a bath at ten last night.
　　When did you take a bath, Student B?
SB：I took a bath at eight last night.
T　：Eight!　I envy you!
　　（黒板に下の英文を書きながら）
　　When I took a bath last night, B <u>had already taken</u> a bath.

次に，生徒同士でインタビューをさせ，その結果を過去完了形で表現するように指示する。更に，eat dinner, start to study, go to bed, get up, have breakfast など，前日から翌朝にかけての行動を板書しておき，インタビューの質問を適宜変えさせる。

この活動は，過去完了形の言語形式の定着を図る文型練習である。「自分は○時に～した」という過去の基準点を意識させ，「どちらが早く～したか」を過去完了形を使って繰り返し表現させることで，過去完了形の概念と言語形式を理解させることができる。さらに，簡単なインタビューを取り入れることで，生徒の生活についての情報のやり取りが行われ，実際のコミュニケーションと近い活動にもなる。

イ　視覚情報を取り入れた練習活動

教師は，黒板に**図２**の１～４の絵を１枚ずつ提示し，過去形を使って時系列に話を展開する。生徒はメモを取りながら教師の話を聞く。

1
1 Taro and Koichi were very good friends, but they had a fight two weeks ago.

2
2 Taro was very depressed for a week.

3
3 They became friends again a week ago.

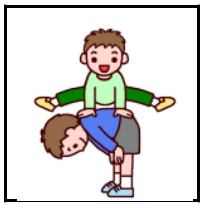
4 
4 Now they are happy and extremely close.

**図２　視覚情報を取り入れた説明**

次に，絵を３→１→２→４に並べ替え，Taro and Koichi became friends again a week ago. という書き出しで話を再生させる。過去の基準点（３の絵）を設定することで，次のように過去完了形を用いて表現する必要性が生じる。

1 Taro and Koichi became friends again a week ago.
2 They <u>had had</u> a fight <u>a week before</u>.
3 So Taro <u>had been</u> very depressed for a week.
4 Now they are happy and extremely close.

最後に，生徒が表現した英語に文法上の誤りがないかを確認し，必要に応じて訂正する。この例の場合，表現する内容は決まっているので，過去完了形の言語形式についてのみ確認すればよい。その際，教師が一方的に説明するのではなく，生徒同士で相互確認させ，生徒の「気付き」を促していく。

(3) 言語を使用して情報を伝え合う活動

ここでは，教科書の教材を理解した後に，その内容について自分の体験などと結び付けて自己表現させる言語活動を例に挙げる。

教材： *EXCEED English II*（三省堂）
Lesson 7　Nowhere Man
内容： ジョン・レノンの苦悩や迷いに満ちた青春時代や，人生の転機となった二つの出来事，ビートルズで成功を収めながらも，精神的には満たされなかった彼の心の葛藤が描かれている。

ア　課題の提示

生徒が教材の内容を十分に理解した後に，次のように指示する。

T： Looking back at John Lennon's life, when was he at the turning point?
S： At the ages of 16 and 17.
T： That's right.　He had two unforgettable experiences then.
I have a question of you.　What is the most important experience in your life?　How did your life/thoughts change <u>before and after the experience?</u>
※　下線部の指示で過去完了形を使う必然性が生じる。
※　「自分の最も大切な体験」についてペアで紹介し合う。

イ　モデルの提示

生徒に実際に表現させる前に，教師自らが表現のモデルを提示し，生徒がそのモデルを参考にして，主体的に活動に取り組めるようにする。その際次の２点に留意する。

○　「どんなことを表現すべきか」を示し，表現内容の充実を図る。
○　表現の中に，活用して欲しい言語材料を適切に用いる。

(4) 言語材料の理解や練習を行う活動②

生徒の活動については適切に評価と指導を行う必要がある。ある生徒の作品を取り上げ，クラス全体で推敲するなどして，言語形式の理解について深化・補充を図ったり，生徒の表現力を高めたりすることが重要である。その際の視点は，大きく次の２点である。

【表現内容の充実】
与えられた課題に対して，伝えるべき情報を適切に伝えているか。
【文法事項の活用】
学習した文法事項が，まとまりのある情報発信の中で適切に活用されているか。

新規の文法事項を活用しなくても情報発信が十分可能な場合もあるが，「この部分を過去完了形を使って表現してみよう。」と投げかけるなどして，新規の文法事項を積極的に活用するように促すことが大切である。

新学習指導要領の内容を踏まえ，言語活動と効果的に関連付けて文法指導を行うことで，コミュニケーションの中で，学習した言語材料を活用する力を身に付けさせたい。

－参考文献－
○　文部科学省『高等学校学習指導要領解説　外国語編・英語編』平成22年５月
○　髙島英幸編著『英文法指導のための「フォーカス・オン・フォーム」アプローチ』2011，大修館書店
○　和泉伸一著『「フォーカス・オン・フォーム」を取り入れた新しい英語教育』2009，大修館書店
○　高橋正夫著『実践的コミュニケーションの指導』2001，大修館書店
○　Penny Ur　*Grammar Practice Activities*　1998
Cambridge University Press

（教科教育研修課）